「橋の博物館」を巡る 徳島自転車Ｔラインについて

徳島県 県土整備部 高規格道路課　須藤（すとう） 孝彦（たかひこ）

1. はじめに

自転車は，子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる，環境にも優しい身近な交通手段であり，健康づくりはもとより，観光振興や地域活性化，機動性の高さによる災害時の活用などにつながることから，近年，自転車を活用した取り組みへの関心が高まっている。

徳島県では，初心者から上級者までが楽しめる「自転車王国とくしま公式コース」を設定し，コースを活用したサイクリングの開催や，県内のサイクルイベントの充実と継続的な開催，「サイクル・キャビン」の運行（写真－1）などを通じて，自転車を活用した地方創生への取り組みを積極的に展開してきたところである。

本稿では，徳島ならではの資源である「橋の博物館」を巡るサイクリングルートである「徳島自転車Ｔライン」（以下，「Ｔライン」という）を活用したブリッジサイクルツーリズムの取り組みについて紹介する。

2. 徳島県の自転車活用推進計画

徳島県では，令和元年12月に「自転車王国とくしま」の実現に向け，本県の自転車を取り巻く現状や課題，それらを解決するために実施すべき施策を明確化し，県民及び民間事業者，行政が一体となって，自転車の活用を総合的かつ計画的に推進するため，「徳島県自転車活用推進計画」（以下，「推進計画」という）を策定した。

写真－1　サイクル・キャビン
出典：徳島県自転車活用検討委員会資料

推進計画では，本県の自転車を取り巻く現状・課題（表－1）や「目指すべき方向性」を踏まえた上で，「まちづくり・環境」，「観光」，「健康・スポーツ」，「交通安全」といった4つの観点に，本県の歴史・自然・文化を活かした「徳島ならではの視点」を加えた「5つの目標」と「22の施策」（図－1）をとりまとめている。

表－1　自転車を取り巻く現状と課題

徳島県の現状		課題
人 口	全国よりも人口減少・高齢化の進行が早い	地域活性化に向けた観光振興による交流人口拡大が必要
地 勢	平地と急峻な山々に囲まれた高低差のある地勢	自転車の活用には，高低差のある山々や沿岸部の変化に富む景観など，地勢を活かしたエリア別の施策展開が必要
	沿岸部においては変化に富んだ海洋資源を有している	
交通手段	通勤・通学の交通手段は，自動車への依存度が高い	自転車は広く普及しているため，潜在的な需要を掘り起こし，利用されていない自転車の活用が必要
	自転車保有率は全国平均より高い	
	駅周辺や繁華街では駐車場が少なく，放置自転車も確認	駐輪場の整備を促進するとともに，自転車利用環境の整備が必要
	レンタルサイクルの台数は少ない	
自転車道	舗装のヒビ割れや雑草の繁茂が見られる	自転車が安全で快適に通行できる空間の整備が必要
	自歩道内整備や車道部におけるブルーラインの整備実績がある	
渋 滞	主要な渋滞箇所は徳島市に集中	自転車を活用した渋滞緩和施策が必要
環 境	県内の CO_2 排出量の 16% が自動車に起因している	自転車の用により CO_2 排出量削減の促進が必要
観 光	宿泊者数は少ないが，観光入込客数は増加傾向にある	増加傾向にある観光客の自転車を利用しやすい環境づくりが必要
	外国人宿泊者数は増加傾向にある	
	観光資源が広域に点在	
	多様な組織により多くの自転車関連イベントを開催	イベントやコースの認知度の向上，地域の特色を活かしたサイクルツーリズムの展開が必要
健 康 運 動	平均寿命及び健康寿命は低い	自転車の利用機会創出により，幅広い年齢層での健康・体力づくりの促進が必要
	糖尿病粗死亡率は全国下位クラス	
	日常的な運動習慣は低水準	
	子どもの運動能力は全国平均より低い	
交通安全	自転車の交通事故は減少傾向にあるが，死者数は横ばい	交通ルールやマナーの遵守，ヘルメット着用意識等の向上が必要
	免許返納者数は増加傾向にある	日常的な移動手段としての自転車利用を確保しておくことで高齢者の外出行動・手段を維持

出典：徳島県自転車活用推進計画

図－1　推進計画における目標と施策
出典：徳島県自転車活用推進計画

3.　橋の博物館を巡る T ラインについて

(1)　「橋の博物館」の取り組み

徳島は水の都とも呼ばれ，吉野川をはじめ大小約 500 の河川が流れており，その河川には全国でも有数の橋が数多く架けられている。

特に吉野川には，昭和初期に架設された三好橋，吉野川橋に始まり，平成 24 年完成の阿波しらさぎ大橋の架橋まで，約 90 年の間に徳島県内

図－2 「橋の博物館とくしま」ホームページ

で46もの橋が架けられており，それぞれが当時の最新工法を駆使したことから，多種多様な橋梁形式が存在することや，当時の東洋一，日本一なども数多く，まさに「橋の博物館」となっている。さらに，令和4年3月には47番目の橋として，吉野川最長の「吉野川サンライズ大橋」が完成したところである。

このような中，平成25年に開設した「橋の博物館とくしま」のホームページ（図－2）では，徳島県内の橋に関する技術，文化，歴史等のデータを収集し，とりまとめるとともに，「吉野川に架かる橋フォトコンテスト」の作品の掲載や，一般の方が見て楽しく橋に愛着が持てるよう工夫を凝らした映像を公開するなど，「バーチャルな博物館」を構築している。

平成29年には，吉野川に架かる46橋について，橋梁史をとりまとめた「とくしま橋ものがたり」（図－3）を発刊しており，写真をふんだんに使い，どなたでもわかりやすく楽しめる内容となっているため，橋を目的とした観光誘客が期待できる。

また，橋の形式や工法，建設当時の写真，設計図などの貴重な情報も掲載しており，技術者や研究者にも役立つ資料になっている。この本は，県庁などの庁舎のほか，「橋の博物館とくしま」ホームページでも閲覧できる。

さらに，本の発行にあわせ，吉野川に架かる46橋の写真（フォトコンテスト等から選定）及び橋梁データをカードにした「とくしまブリッジカード」（図－4）を作成し，吉野川近傍の道の駅など12箇所で配布している。なお，「とくしま

図－3 とくしま橋ものがたり

【日本語版】 【英語版】

図－4 とくしまブリッジカード

ブリッジカード」を入手するには，現地で撮影した橋の写真を提示する必要あることから，コレクターズアイテムとして，後述するＴラインを使用したブリッジサイクルツーリズムとあわせて収集の旅を楽しむことができる。

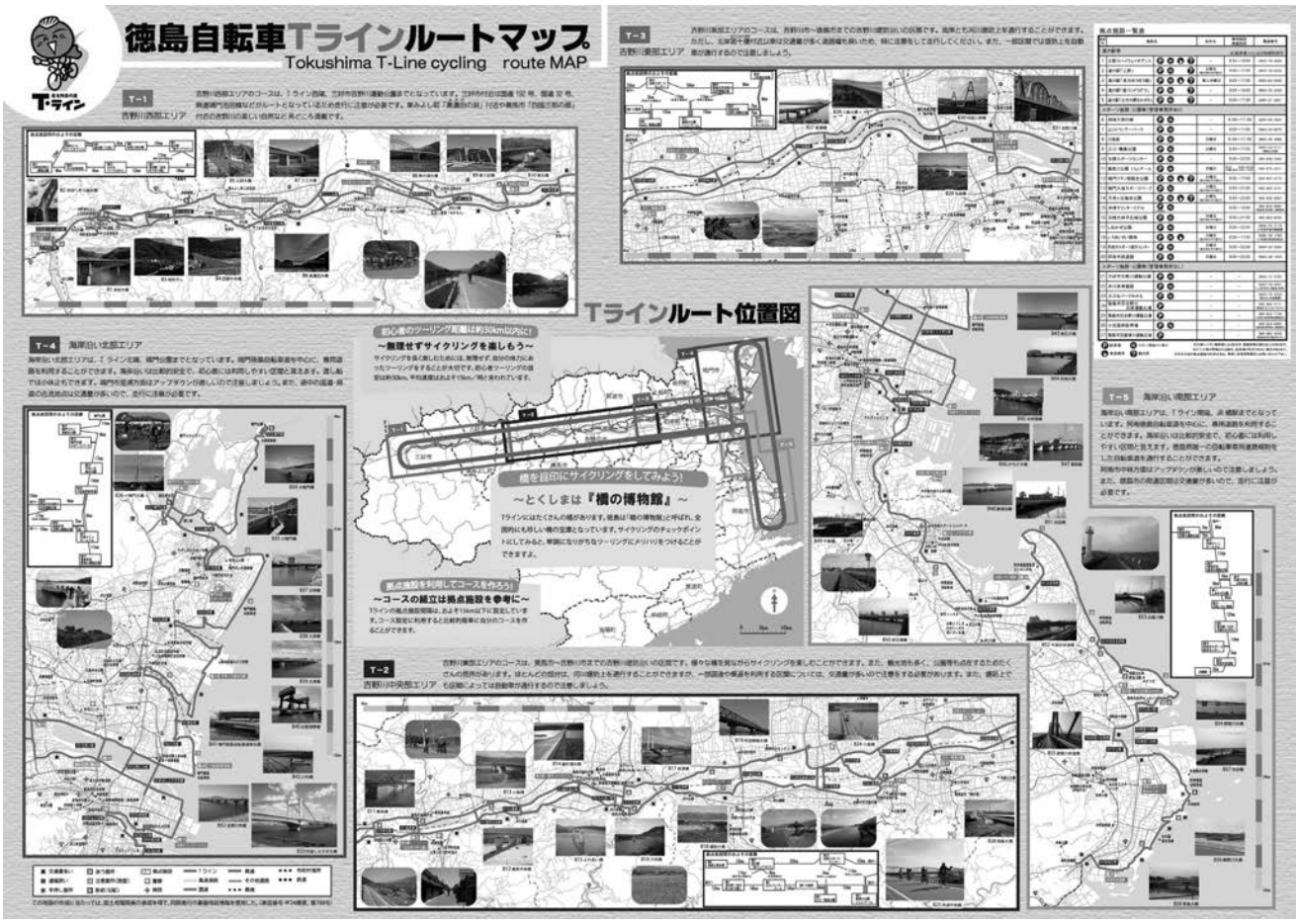
⑵　Ｔラインルートマップの概要

Ｔラインは，初心者でも自転車で走りやすいよう，比較的平坦な地形を有している吉野川沿い及び海岸線沿いの既存道路を有効活用したサイクリングコースであり，有識者等で構成される「健康増進に資する徳島自転車走行空間整備検討会議」において，平成24年度に決定した。

県域の中央部，北部，東部，西部，南部５つのルートで構成されており，前述の「橋の博物館」の橋に加え，文化財等も巡ることができ，徳島ならではの景色と歴史を感じられるものとなっている（写真－２，図－５）。各ルートにおいては，全国的にも珍しい橋に出会うことができることから，橋をサイクリングのチェックポイントにすることで，単調になりがちなツーリングにメリハリをつけることができる。

また，それぞれのルートにおいて，休憩や自転車のメンテナンスが可能な道の駅，公園等の拠点施設の間隔を15 km以下に設定しているため，体力にあわせてコースを自分で設定して楽しむこ

写真－２　Ｔライン走行状況



図－５　徳島自転車Ｔラインルートマップ（地図面）

とができる。

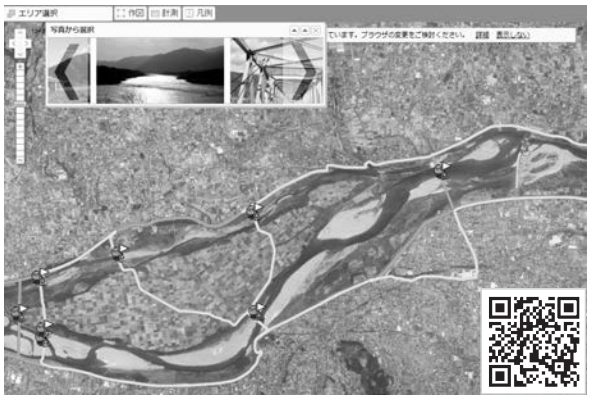
なお，Ｔラインルートマップについては，現在，県のホームページで紹介するとともに，ルートマップの配布等により，広く周知している。

⑶　Ｔラインルートマップの充実に向けた取り組み

前述の推進計画に基づき，橋の博物館を巡るＴラインルートマップの充実及びＴラインサイクリング拠点施設の機能強化を推進している。

令和２年度には，徳島大学と協力し，Ｔラインルートの自転車走行環境調査を行い，サイクリスト目線による危険個所の把握や，ビューポイントなどの新たな魅力の掘り起こしなどを行い，Ｔラインルートマップを充実させるために必要な基礎調査を行った。今後は，この調査結果をもとにＴラインルートマップの更新に取り組むこととしている。

そこでまず，令和３年度には，新たにスマートフォンなどで，ビューポイント（橋の博物館）や拠点施設（道の駅等），現在位置などを確認することができる「電子版Ｔラインルートマップ」を作成し，「徳島県総合地図提供システム」に公開した（図－６）。



図－６　電子版Ｔラインルートマップ

電子版Ｔラインルートマップは，Ｔラインを構成する５つのコースに加え，初心者の方におすすめのコースを４つ公開しており，おすすめコースのナビデータをダウンロードして自転車用ナビゲーションシステムへの活用が可能となっている。

また，電子版Ｔラインルートマップ上から「橋の博物館とくしま」ホームページに掲載している吉野川に架かる橋の写真や動画に直接アクセスすることが可能となり，現地で橋の情報を簡単に調べることが可能となった。

あわせて，「道の駅」等の拠点施設の機能強化として「工具」や「スポーツサイクル用空気入れ」の設置を行っている（写真－３）。

これらの取り組みにより，サイクリストの方の利便性や満足度の向上を図っている。

写真－３　Ｔライン拠点施設の機能強化

4.　おわりに

今後は，Ｔラインルートマップの更なる充実を図るため，マップの更新にあわせた多言語化や，休憩場所やビューポイント等の追加等を予定している。

また，推進計画の計画期間が令和元年度から令和４年度までであるため，現在，推進計画の改定作業を進めているところであり，Ｔラインをはじめとするサイクリングルートの見直し，ルート案内のための路面表示等の自転車走行空間の整備，「橋の博物館」と連携した体験型コンテンツの充実等を検討している。

今後とも，Ｔラインを活用したブリッジサイクルツーリズムの取り組みの拡充を図ることにより，一人でも多くの皆さまに橋に興味を持ってもらい，徳島の宝となる橋を実際に現地へ見に来ていただけるよう，魅力発信に努めていきたい。